

慰霊の日、特設授業

比嘉 正二

先日、読んだ、書籍「ホモ・デウス」の中に、
「今日、人間は地球上を完全に支配しているが、これは個々の人間が個々のチンパンジーやオオカミよりはるかに利口だったり手先が器用だったりするからではなく、ホモ・サピエンスが大勢（無数の見知らぬ人）で、柔軟（効果的）に「協力」できる地球上で唯一の種だからだ・・・」という一文があった。

『人間は、協力できる』・・・なるほど・・・と思わされた。

さて、今日は、慰霊の日の特設授業です。

これから、舞台上で披露される「パフォーマンズ」の前に一言あいさつします。

本村凌二さんという学者さんが、『民衆や政府が、歴史から学ぶといったことは一度たりとなく、また歴史から引き出された教訓に従って行動したことなど全くない』ということを書いている。

人間は、過去の過ちを“繰り返し易い”ということなのだろうか。

人間は「忘れやすい・・・」。でも、忘れないとやっつけられないこともある。

忘れやすいから、「慰霊の日」という『目印』をおいて、あの戦争の多くの犠牲者の死を悼む。

ところで、平和は、願うだけでは実現できない・・・。

多分、あの戦争が起きた頃の人々も、平和を願っていたはずです・・・。

つまり、「個人、個人が、いかに良心を有していたとしても、決して起こしてはならない『戦争』に突き進んでしまうことがある」ということを、高校生なら理解して欲しい。

戦争を、「個人の問題」に落とし込んではいけません・・・。

『どうすれば、国家が戦争を回避できるか・・・』ということを考えるのが、「高校生の平和教育」ではないか、と私は考えます。

みなさんなら、どうすれば戦争の起こらない「社会（世界）」が実現できると思いますか？

そんなことを考えながら、舞台に目を向けてください。

では・・・。

令和元年六月二十一日

うるま市「きむたかホール」